

平成24年度
平成23年度実施

事務事業評価調書

整理番号 1 - 22
作成年月日 H 24. 7. 23

事務事業名 救急救命士研修事業

事業区分 ☒ 継続 ☐ 新規

事業開始年度 平成20年度 住民参加 ☐ 有 関係例規・法令名 救急救命士法、消防庁・厚生労働省通達
事業終了年度 平成30年度 住民協働 ☒ 無 関係個別計画名

会計区分 一般会計 款 9. 消防費 項 1. 消防費 目 1. 広域消防費

担 当 課 消防支署 担 当 係 名 総務係 調書作成者職氏名 副支署長 裕 智幸

【第五期興部町総合計画】 ☒ 登載事業 ☐ 非登載事業 実施計画登載No 36

分 類	コード	名 称
基本目標	1	安心して暮らせる“まちづくり”
施策項目	5	消防・救急体制の充実
単位施策	3	消防施設の整備

I. 事業計画

(1) 対 象	【事業の相手】 ※ 何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか具体的に記載して下さい。 消防署興部支署職員（救急救命士）
(2) 手 段	【事業の概要】 ※ 目指すべき姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載して下さい。 救急救命士による救急処置範囲の拡大により、心肺機能停止の状態である傷病者に対し気管挿管（気道確保）及び薬剤（エピネフリン：心拍再開のための強心剤）の使用が認められたことから、必要な講習及び実習を年次計画で受講させ、処置可能な救急救命士を養成する。 ※今後も①喘息発作に対するβ刺激薬の使用 ②低血糖発作症例への血糖測定及びブドウ糖溶液の投与 ③心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実施 の処置拡大が予定されている（実施時期未定）。
(3) 目 指 す 姿	【事業の成果】 ※ 事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載して下さい。 救急出場件数が年々増加する傾向にあるなか、高度な応急処置や迅速な対応が求められていることから、救急救命士に資格を取得させ、救急業務の質的高度化、更なる救命能力の向上を図る。

II. 指 標【成果を判断する目標数値】

No	種 別	内 容	区 分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
1	対象指標	薬剤講習・実習修了者	目標値 実績値	人	1 1	1 1	1 1	1 1	
2	対象指標	気管挿管実習修了者	目標値 実績値	人					
3			目標値 実績値						
4			目標値 実績値						

III. 事業費の推移 (単位：千円)

区 分	19年度 決 算	20年度 決 算	21年度 決 算	22年度 決 算	23年度 決 算	24年度 予 算	20～24年度 合 計
事業費(千円)	0	412	337	323	326	0	1,398
財源内訳							
国庫支出金							0
道支出金							0
地方債							0
その他			180	180	180		540
一般財源		412	157	143	146	0	858

IV. 担当課による事務事業の評価

区 分	チェック項目の説明（内容）等
1. 実施の妥当性 (1) 町の政策的な事業である。 ☐ (2) 公共性が高い事業である。 ☒ (3) 緊急性が高い事業である。 ☐ (4) 法令等により実施が義務付けられている。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	・救命率の向上を図るうえで救急高度化の推進が不可欠であることから、救急救命士の処置拡大に伴う対応を図る。
2. 経済性・効率性 (1) 費用に見合う効果がある。 ☐ (2) コスト削減の余地がある。 ☐ (3) 受益者負担の余地がある。 ☐ (4) 補助制度等活用の可能性がある。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☒	・救急業務の高度化（救命率の向上）に伴い、救急救命士の救命処置の範囲拡大（気管挿管、薬剤投与）に伴う研修、病院実習が多くなり、その経費は増加する傾向にある。 尚、薬剤投与講習については21年度から（財）北海道市町村振興協会の助成金事業により研修経費（旅費は含まない）が助成されている。
3. 必要性 (1) 町民のニーズがある。（高い） ☒ (2) 事業を継続する必要がある。 ☐ (3) 類似事業との統合・再編の可能性がある。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	・救命率向上を図るため、救急救命士による処置範囲が拡大されているなかで、住民の信頼を獲得するためには救急業務の高度化を更に推進する必要がある。
4. 代替性 (1) 行政主体による実施が適当である。 ☒ (2) 民間委託等による実施が可能である。 ☐ (3) 住民協働（主体）による実施が可能である。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	・代替性なし 関係法令により市町村の基本的責務とされている。
5. 事業の達成度 (1) 期待どおりの成果があがっている。 ☐ (2) 概ね期待どおりの成果があがっている。 ☒ (3) 成果が不十分である。 ☐ (4) 事業の見直し等が必要である。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	・拡大された救急救命処置の講習修了者が救急出動に常時1名以上乗車する体制が確保され、傷病者に対するプレホスピタルケア（病院前救護）の充実が図られた。

特記事項

薬剤講習はH23年度で予定者全員の講習を終了。気管挿管実習は消防組合の研修計画により遠軽厚生病院で実施、各支署は6年毎の予定で、興部支署は次回H27年度予定。 薬剤投与救命士：現在8名 気管挿管救命士：現在2名

V. 一 次 評 価（所管課）、二 次 評 価（庁内評価委員会）

区 分	評 価	評価選択理由／今後の方向性
一 次 評 価	継 続 【現状維持】	救急出場件数は年々増加する傾向にあり、高度な応急処置や迅速な対応が求められていることから、救急業務の質的高度化、更なる救命能力の向上を図るため継続していくことが適当である。
二 次 評 価		二次評価対象外

VI. 外部意見（興部町総合計画策定審議会）

--	--

VII. 総合評価（町長、副町長、教育長）

最 終 評 価	評価選択理由／今後の方向性

☆ 評 価

- (1) 継 続 **【現状維持】** ⇒ 事業内容、事業量に大きな変動がなく、予算増減が少ないもの
 (2) 継 続 **【拡 充】** ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算増を伴うもの
 (3) 継 続 **【縮 小】** ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算減を伴うもの
 (4) 継 続 **【統 合】** ⇒ 事業内容の類似する事業に統合し、この事業を廃止するもの

- (5) 終 了 ⇒ 単年度事業、期間満了による事業の終了
 (6) 休 止 ⇒ 隔年度での事業実施などによる事業の休止
 (7) 廃 止 ⇒ この事業を廃止するもの